



HEPHAIST

東証スタンダード：6433

2025年3月期 第2四半期（中間期）決算説明会

12月4日(水)

ヒーハイト株式会社

【 第63期 経営方針 】

不易流行

目次

1. 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算概要
2. 2025年3月期業績予想
3. 中期経営計画の遂行・実現
4. 直近のTOPICS
5. 参考資料
6. 今後の展開

1. 2025年3月期 第2四半期（中間期） 決算概要

- **連結売上高：10億7千6百万円** 前年同期比 5千万円（4.5%減）
- ・ 直動機器は、需要回復の遅れや中国市場からの受注停滞が継続したこと等の影響を受け、売上高 6億9千4百万円（前年同期比16.0%減）
 - ・ 精密部品加工は、レース用部品の売上が増加したことにより、売上高 2億8千5百万円（前年同期比39.1%増）
 - ・ ユニット製品は、半導体・液晶向けの製造装置にステージ及び、転がり案内による球面軸受の売上が増加してきたことにより、売上高 9千6百万円（前年同期比1.5%増）

- **連結経常損失：7千4百万円** 前年同期比1千7百万円（－%）増
- ・ 固定費等の増加及び、直動機器の売上高低下。

2025年3月期第2四半期（中間期）決算の概況

【第63期 経営方針】
不易流行

- 売上高は、不安定な国際状況や為替相場の動向による影響、国内物価上昇への懸念、中国経済の停滞などの状況により、対前年比で減少となりました。

単位：百万円	2024年3月期 第2四半期 (中間期) 実績	2025年3月期第2四半期（中間期）				対前年増減額 (前年比)	対期初予想増減額 (予想比)
		期初予想		実績			
		金額	構成比	金額	構成比		
売上高	1,126	1,028	100.0%	1,076	100.0%	△50 (△4.5%)	48 (4.7%)
売上総利益	142	189	18.4%	159	14.8%	16 (11.7%)	△29 (△15.8%)
販管費及び一般管理費	238	243	23.7%	234	21.7%	△4 (△2.1%)	△9 (△4.1%)
営業損失	△96	△54	△5.3%	△74	△6.9%	21 (－%)	△20 (－%)
経常損失	△92	△57	△5.6%	△74	△7.0%	17 (－%)	△16 (－%)
当期純損失	△64	△59	△5.8%	△58	△5.4%	5 (－%)	1 (－%)

四半期業績の推移 及び 品目別四半期売上高の推移

【 第63期 経営方針 】
不易流行

- ・ 売上トップラインが低迷した分、年間を通じて損失計上となりました。
- ・ 直動機器は、販売先と需要回復に備えて戦略的に在庫を積むための出荷を前第3四半期迄継続してきましたが、前第4四半期以降は受注動向が回復せず、在庫調整もあり減少しました。
- ・ 精密部品加工は、当第2四半期以降、レース用部品の売上が増加しております。
- ・ ユニット製品は、前期まで中国市場での生産設備の需要回復が遅れておりましたが、当第1四半期以降は回復傾向にあります。

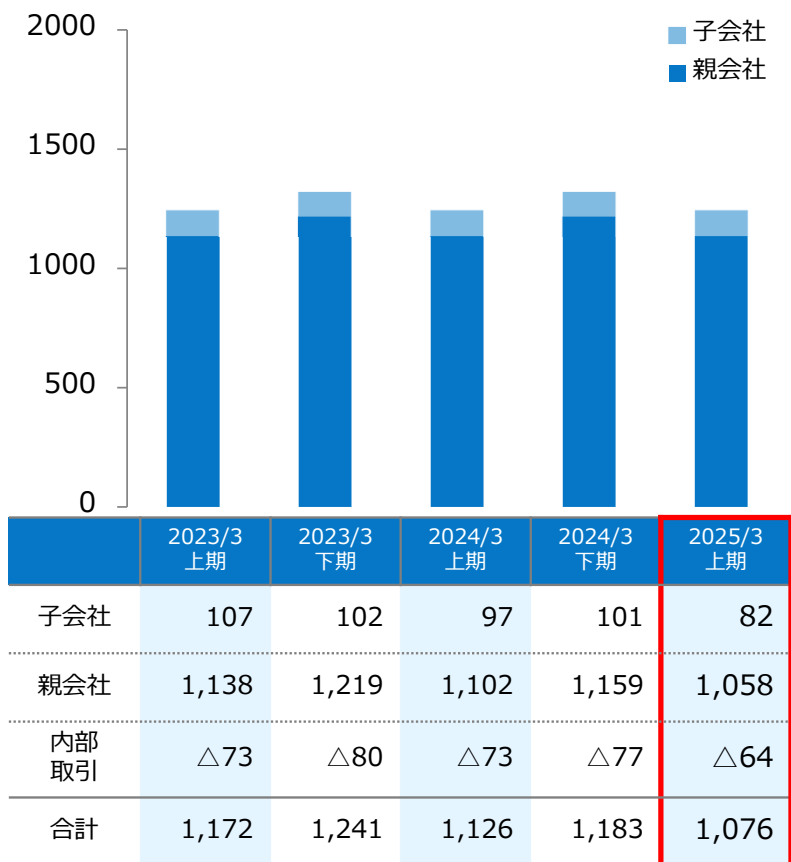
単位：百万円	2024/3月期 第3四半期		2024/3月期 第4四半期		2025/3月期 第1四半期		2025/3月期 第2四半期		2025/3月期 上期	
売上高	643		540		520		555		1,076	
営業損失	△3		△59		△54		△20		△74	
経常損失	△2		△61		△52		△22		△74	
当期純損失	△5		△151		△38		△20		△58	

品目別	売上高		構成比		売上高		構成比		売上高		構成比		売上高		構成比	
直 動 機 器	417	64.9%	348	64.4%	358	68.8%	336	60.5%	694	64.5%						
精 密 部 品 加 工	174	27.2%	149	27.6%	118	22.8%	167	30.1%	285	26.6%						
ユ ニ ッ ト 製 品	51	8.0%	43	8.0%	43	8.4%	52	9.4%	96	8.9%						
合 計	643	100.0%	540	100.0%	520	100.0%	555	100.0%	1,076	100.0%						

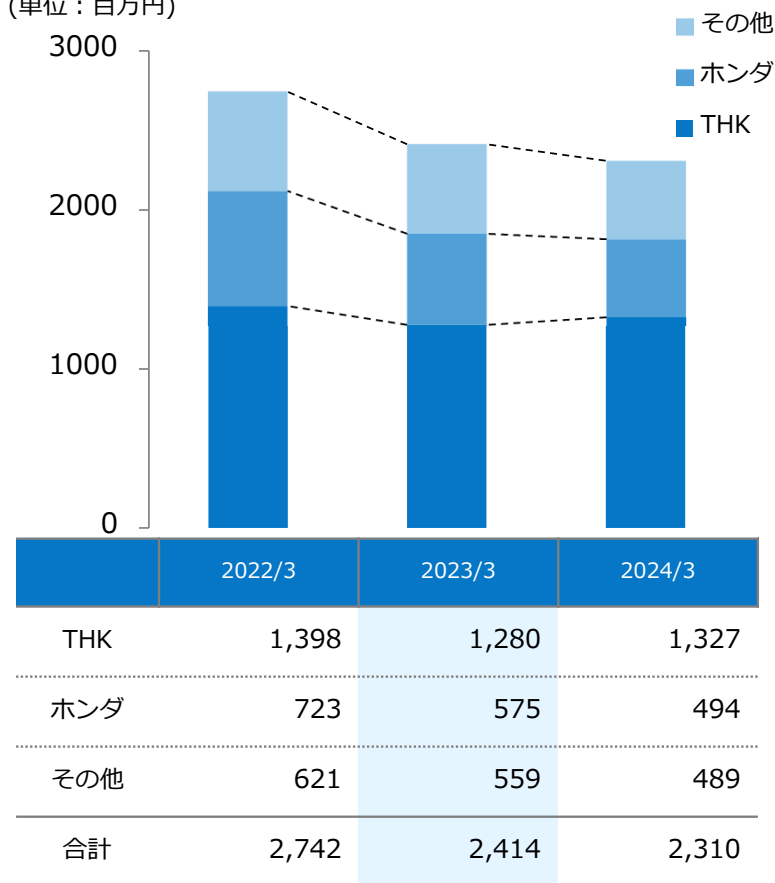
売上高 及び 主要売上先の推移

- ・ 中国経済の停滞を背景に産業用機械や半導体製造装置向けで需要の低迷が継続。
- ・ 特定販売先への依存度が高く、需要が受注に影響。

(単位：百万円)

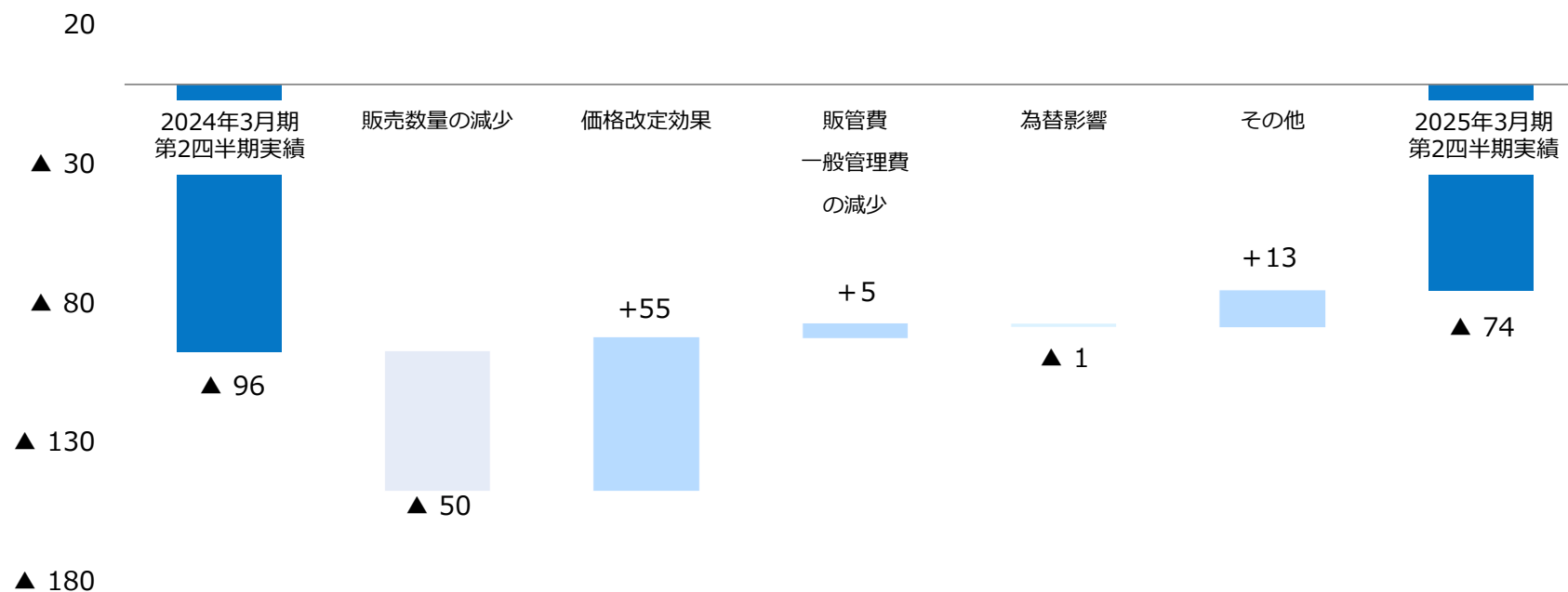


(単位：百万円)



- 販売数量が減少し原材料価格の高騰もあり、営業利益が前期比減少。

(単位：百万円)



貸借対照表

【第63期 経営方針】
不易流行

単位：百万円	2024年3月期 実績	2025年3月期第2四半期 (中間期) 実績	増減額	コメント	
流動資産合計	2,729	2,339	△389	棚卸資産 現金及び預金	93百万円増 510百万円減
固定資産合計	2,654	2,726	71	リース資産	95百万円増
資産合計	5,383	5,065	△317		
流動負債合計	1,070	789	△280	仕入債務	286百万円減
固定負債合計	1,294	1,310	15	リース債務 長期借入金	93百万円増 73百万円減
負債合計	2,365	2,099	△265		
純資産合計	3,018	2,966	△52	※連結自己資本比率58.6%	
負債純資産合計	5,383	5,065	△317		

キャッシュ・フロー

単位：百万円	2024/3期 実績	2025年3月期第2四半期 (中間期) 実績	コメント
営業活動によるCF	166	△367	(プラス面) 減価償却費の増加 (マイナス面) 仕入債務の減少・棚卸資産の増加
投資活動によるCF	△322	△55	有形固定資産の取得
財務活動によるCF	171	△98	借入金の増加 借入金の返済・リース債務の返済
現金及び現金同等物に係る 換算差額	5	10	
現金及び現金同等物の 増加額(△は減少)	20	△510	
現金及び現金同等物の 期末残高	884	374	

2. 2025年3月期業績予想

2025年3月期業績予想 及び 品目別売上高予想

【第63期 経営方針】
不易流行

- 自動化関連の需要に向けて、強化した生産設備の生産能力を生かした直動機器のスマート生産を実践し、生産の増強及び販売の拡大を図って参ります。

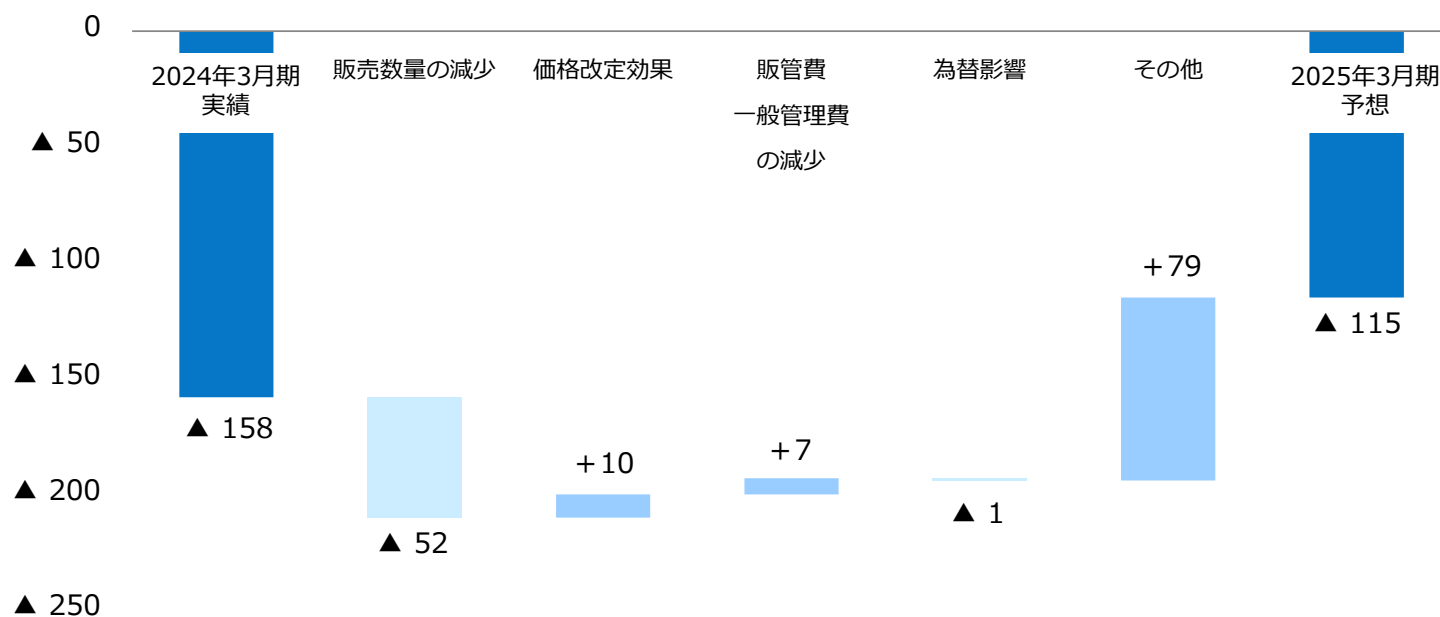
単位：百万円	2024年3月期 実績	2025年3月期		2025年3月期 予想	前期比
		上期 実績	下期 予想		
売上高	2,310	1,076	1,181	2,257	△2.3%
営業利益又は営業損失	△158	△74	△40	△115	－%
経常利益又は経常損失	△156	△74	△45	△120	－%
当期純利益又は当期純損失	△221	△58	△32	△91	－%
売上高営業利益率	△6.9%	△6.9%	△3.4%	△5.1%	1.8P

品目別	2024年3月期 実績	2025年3月期		2025年3月期 予想	前期比
		上期 実績	下期 予想		
直動機器	1,591	694	708	1,402	△11.9%
精密部品加工	529	285	367	653	23.3%
ユニット製品	188	96	105	201	6.7%
売上合計	2,310	1,076	1,181	2,257	△2.3%

2025年3月期 営業利益予想増減要因

- 半導体需要の高まりや人手不足に伴う自動化に向けた設備投資の増加などにより、経済活動の正常化に向けた動きは継続していくものと想定されます。
- 為替社内レートは、人民元21.5円

(単位：百万円)

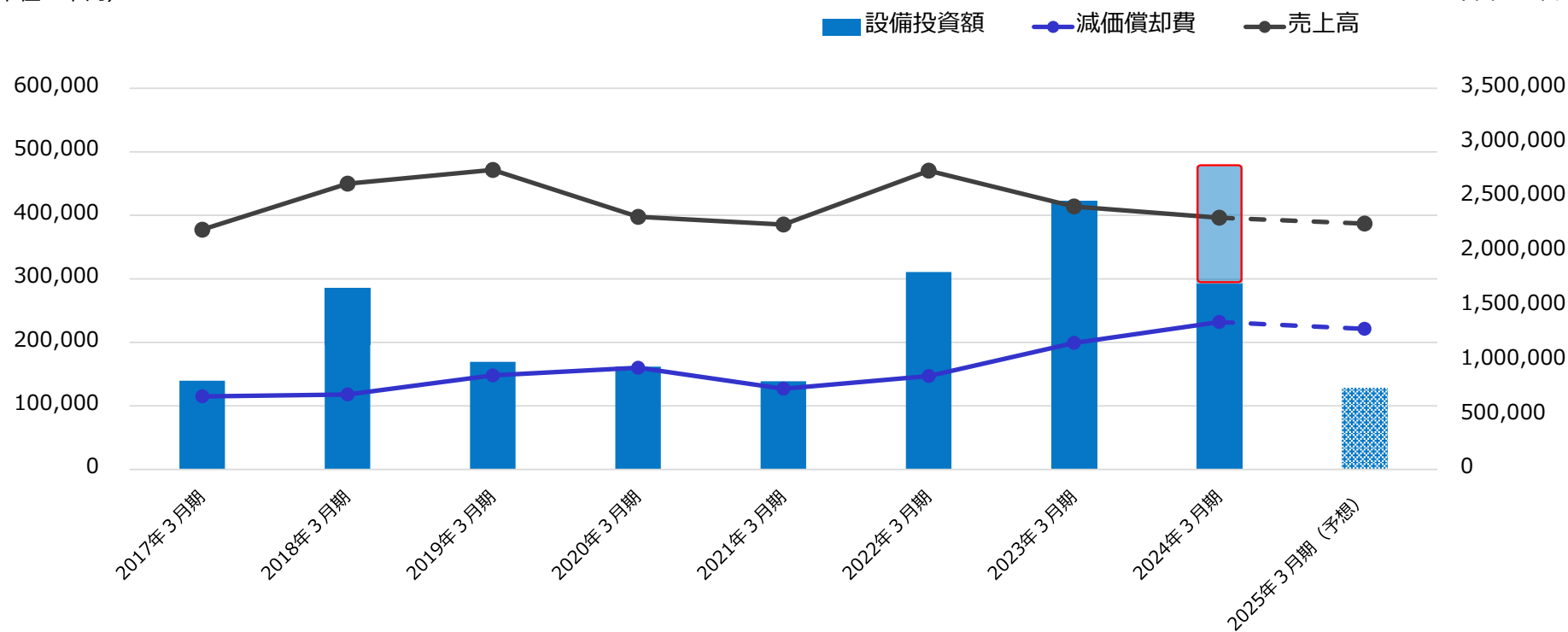


設備投資推移

- 直動機器増産のための工場A棟の稼働を前期5月に開始し、引き続き中期計画に必要な設備投資を実行し、生産の増強を図っております。
- また、当中間連結会計期間の期首から減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。
- その結果、減価償却費が減少しております。

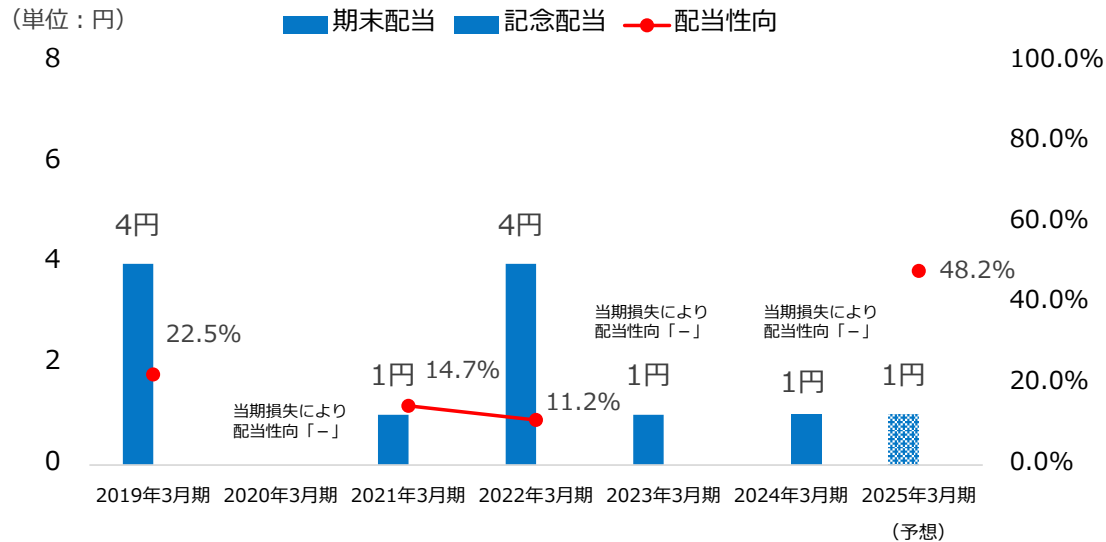
設備投資額
(単位：千円)

売上高
(単位：千円)



＜株主還元の強化＞

- ・ 配当方針として、2027 年3 月期までに連結配当性向20～30%に強化。
- ・ 自己株取得を有効に活用し、人事戦略等に使用する。



＜株主優待制度の新設＞

- ・ 株主優待制度導入の目的

上場維持基準の適合に向けた 取組みの一つとして、個人株主が多数を占める当社の株主構成を考慮し、個人株主の関心や期待が高い株主優待制度の導入を決定しました。

直近株価で総合利回り（配当と株主優待の各利回りの合計）最大約12%に設定した株主優待制度となっております。

決算説明会等による I R 活動等を積極的に行い、より多くの株主様に当社のご理解いただくことで中長期的な株価向上につなげる取組みを継続し、株主優待制度を新設することで適切な株価形成につなげて参ります。

- ・ 株主優待制度の内容

（１）対象となる株主様

2025年以降の毎年3月末日の株主名簿に記載又は記録された、100株（1 単元）以上の当社株式を保有されている株主様を対象といたします。

（２）株主優待の内容

項目	保有株数	優待内容
年間株主優待	100株以上	Q U Oカード 3,000円分

（３）贈呈の時期

毎年6月下旬お送りする「定時株主総会決議のご通知」に同封し、お届けする予定です。

- ・ 株主優待制度の開始時期

2025 年3月31日現在の株主名簿に100株以上の当社株式を保有されている株主様を対象として株主優待制度を開始いたします。

3. 中期経営計画の遂行・実現

- ・ 現在進めている中期計画『Hephaist Vision65』を着実に遂行することにより、各投資の成果を出し、2027年3月期には売上高3,086百万円、営業利益276百万円の達成を目指します。

中期経営計画 2024年3月期（第62期）～2027年3月期（第65期）売上高30億円へ

	2024年3月期		2025年3月期		2026年3月期	2027年3月期
	計画	実績	計画	修正計画	計画	計画
売上高	2,271百万円	2,310百万円	2,452百万円	2,257百万円	2,843百万円	3,086百万円
売上総利益	315百万円	315百万円	505百万円	352百万円	603百万円	753百万円
売上総利益率	13.9%	13.7%	20.6%	15.6%	21.2%	24.4%
営業利益または営業損失	▲163百万円	▲158百万円	23百万円	▲115百万円	135百万円	276百万円
営業利益率	－	－	1.0%	－	4.8%	9.0%

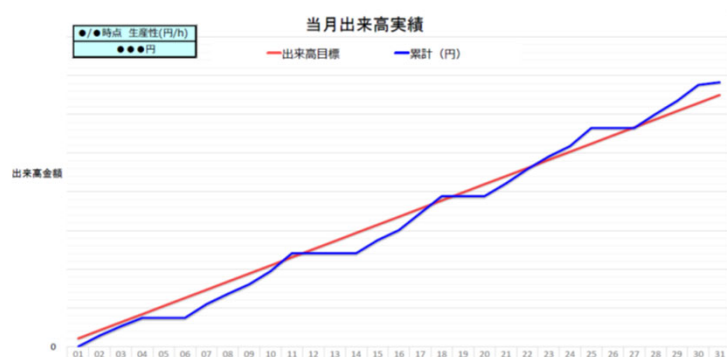
- ・ 中期経営計画については、每期ローリング方式で更新して参ります。
- ・ 当初の計画通り、設備投資・生産数量の確保による安定生産、人的資本投資等への成長投資を継続し、増産に対する生産体制を整え、戦略在庫も積んできたことにより、受注回復に備えております。
- ・ 製品群の見直し（スクラップ&ビルド）・・・低採算製品からの撤退を検討し、リソースを高収益製品に集中することを進め、採算性を向上させる予定です。
- ・ 2024年3月期は、計画に比べ受注回復が遅れたこと、原価が増加したことにより損失を計上しました。
- ・ 2025年3月期は、上半期まで受注回復が遅れ、下期受注増の見込でございましたが需要上階全体の回復にいまだに時間を要するため、損失を計上いたしました。※2024年11月12日発表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」にて2025年3月期通期業績予想を修正
- ・ 2026年3月期、2027年3月期は、計画を変更せず目標として進んで参ります。

＜中期経営指標＞

収益性 : 連結営業利益率 10% 以上 → 目標 : 2027 年 3 月期達成
 効率性 : 連結 ROE 8%以上 → 目標 : 2027 年 3 月期達成
 配当性向 : 連結配当性向 30%

＜A.直動機器の増産増販＞

- ・成長戦略として中期的な自動化関連の需要増加に対応するため、「スマート生産プロジェクト」の一環とする設備投資を行い、生産を上げ、売上を伸ばして行きます。
- ・利益率の改善は、設備投資のピークアウトによる償却費の減少及び、電力費削減等のコスト削減に加え、生産数量を確保し、安定的に生産することで、固定費率の減少を実現することにより利益回復を図って行きます。
- ・半導体市場は、2024 年後半は再び徐々に市況が良くなっていき、2025年には過去最高の市場規模となる予想。
- ・海外展開、協業への取組。



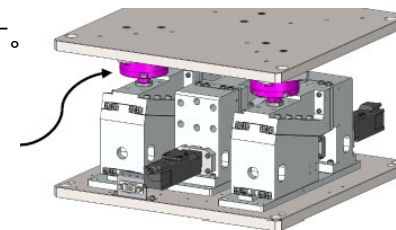
＜B.精密部品加工の売上確保＞

- ・ホンダグループのモータースポーツ参戦のレース用部品供給継続による収益を確保します。
- ・強みを生かした新たな精密部品受託加工への取組。



＜C.ユニット製品の販路拡大＞

- ・仕様の標準化による設計効率化及びお客様への対応時間を短縮し、販売強化します。
- ・新製品NAF HW シリーズの販売を拡販し、更に製品ラインナップ増加を図ります。
- ・新たな海外市場への展開を図ります。



<株主還元の強化>

- ・ 上場20 周年記念配当の実施。
- ・ 配当方針として、連結配当性向30%以上とする。
- ・ 自己株取得を有効に活用し、人事戦略等に使用する。
- ・ 社員持株会奨励金付与率を5%から50%に増額し、社員の株式購入機会の増加を促進し、安定的な株式購入需要を確保することで、出来高の増加に寄与し、株式市場での流動性向上を図る。

<IR活動の充実>

- ・ より多くの投資家の皆様に当社の情報をお伝えするため、今まで以上にIR 活動を強化して参ります。具体的には、以下の取組を中心に情報発信をより一層推進して参ります。
- ・ 決算説明資料を「ログミーFinance の説明 書き起こし」により、内容のより深い事業理解へ繋げ、同時に、多くの投資家に配信し、これまで以上に投資家へ情報の裾野を広げていく取組を進めております。
- ・ スポンサーレポートとしてFISCO 企業調査レポートを開示しております。
- ・ 自社HP 等でのIR/PR 情報発信の強化
- ・ 1 on 1 ミーティングの実施等

●サステナビリティに関する取組

- ・ 太陽光発電の設置（年間発電量約162,000kwh、CO²排出量年間約60.65t の削減を見込む）
- ・ 廃棄物を固形燃料へ再利用「RPF」（Refuse Paper & Plastic Fuel）
- ・ フードドライブ事業参加（食品廃棄ロスを減らし、子ども食堂へ食品を寄付）
- ・ 国際協力活動支援（チャイルド・スポンサーシップ）（貧困に苦しむ支援地域の環境整備を支援）
- ・ 紙のエコ化（卵の殻のリサイクル）エコペーパー「CaMISHELL®」の使用

●人的資本経営を意識した取組

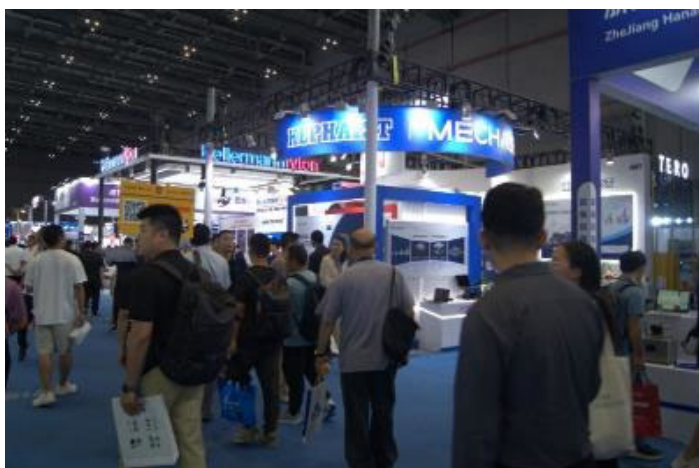
- ・ 事業推進の核となる人材の育成
- ・ 教育制度の拡充
- ・ 海外人材の活用
- ・ 女性管理職の登用（今期、13 年ぶりに女性管理職の誕生）
- ・ 男性の育児休暇取得
- ・ 奨学金返還支援手当の導入
- ・ 社員持株会奨励金付与率を5%から50%に増額し、福利厚生の実施により、社員と会社とのエンゲージメント向上を高め、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上。

●パートナーシップ構築宣言で協力会社との関係強化

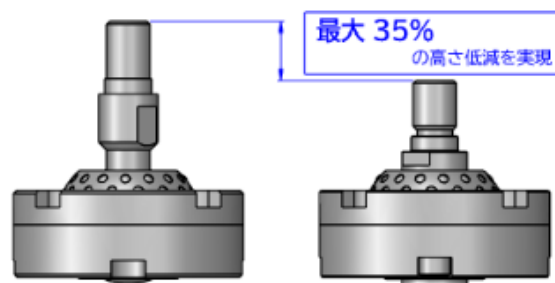
4. 直近のTOPICS

■ SIA 上海国際智能工場展（SIA 上海スマートファクトリー）に出展

2024 年 7 月 24 日から開催された SIA 上海国際智能工場展（SIA 上海スマートファクトリー）に出展いたしました。期間中、ブースには多くの方に来ていただき、当社製品説明を熱心に聞いていただきました。特にSRJ（球面軸受）に対するニーズの広がりを感じております。

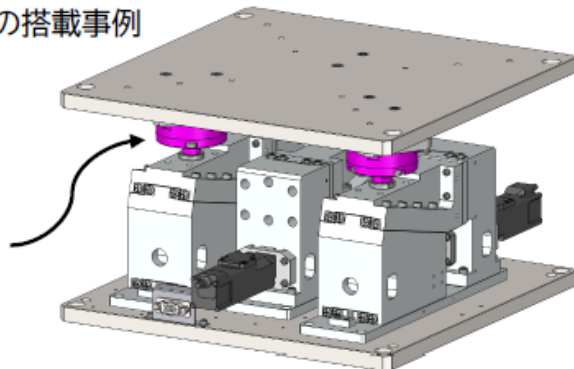


赫菲（上海）轴承商贸有限公司 HEPHAIST (SHANGHAI) CO.,LTD.
201204 上海市浦东新区沪南路2157 号活力中心B 座420 室



当社ステージへの搭載事例

軸短タイプ SRJ



■ 球面軸受（SRJ）の軸短タイプを追加

当社は、様々な分野への用途と効果の実績がある球面軸受（SRJ：Spherical Rolling Joint）に新タイプを追加しました。

転がり案内方式の球面軸受（SRJ）は、世界でヒーハイトのみが製品化しており、AI 需要の高まりの中、世界的な半導体供給能力強化を背景に引き合いが増加しております。

装置のテーブル面や軸の傾き調整など、微小な角度を精度良く追従させたいという国内だけでなく海外からの問い合わせも多くあり、ニーズの高まりの中で装置全体の高さを抑えたいという要望に応えるべく、軸短タイプのラインアップを追加しました。

また、表面処理やグリース封入の選択自由度を上げることでより対応出来る環境を拡げ、付加価値を向上しております。

今後お客様のニーズに応えながら更なるシリーズラインアップ拡充を図ると共に、アジア市場を中心とした海外への販売展開の推進を図り、2026年度にはシリーズ全体売上で2億円を目指します。

■ FIA-F4の HFDP with B-Max Racing Team を観戦応援しました

モータースポーツの発展とともに歩んできた当社は、「世界に通用するドライバーの育成」を掲げるホンダの若手ドライバー育成プログラムに賛同し、「ホンダ・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト（HFDP）」を応援しております。
この度ご招待いただき、当社のホンダ様担当者及びモータースポーツを愛する社員が観戦応援しました。



■ 当社公式SNSに、鏡面仕上げの加工例を掲載



Youtube : <https://www.youtube.com/watch?v=ndViQGKw0Ho>

Facebook : <https://www.facebook.com/photo/?fbid=1049274253651873&set=pcb.1049275696985062>

instagram: https://www.instagram.com/hephaist_official/p/DBLT4W7z36H/

■ 埼玉県の実践企業におけるプラチナランクの認証を取得

埼玉県では、多様な働き方実践企業として、7～9つの認定項目に該当し、仕事と家庭の両立支援や女性の活躍推進に積極的に取り組んでいる企業をプラチナ認定企業として認定しており、当社ではこれからいろいろな社員に活躍してもらうための取り組みを続けて参ります。



5. 参考資料

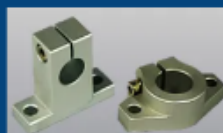
社名	ヒーハイス株式会社
本社	〒350-1151 埼玉県川越市今福580番地1
工場	埼玉工場 〒350-1151 埼玉県川越市今福580番地1 [敷地面積16,677㎡ 建物面積7,997㎡] TEL : 049-273-7000 (代表) / FAX : 049-273-7001 秋田工場 〒010-1653 秋田県秋田市豊岩小山字下田454 (豊岩工業団地内) [敷地面積36,292㎡ 建物面積4,525㎡] TEL : 018-828-0111 / FAX : 018-828-1192
海外	赫菲(上海)軸承商貿有限公司 HEPHAIST (SHANGHAI) Co., Ltd. 赫菲(上海)軸承商貿有限公司 蘇州分公司 HEPHAIST (SHANGHAI) Co., Ltd. Suzhou branch
資本金	732,552,000円 (2024年3月)
上場株式市場	東京証券取引所スタンダード (証券コード : 6433)
発行済株式数	6,316,700株
代表者	代表取締役社長 尾崎 浩太
設立	1962年 (昭和37年) 7月19日

直動軸受（円筒）製品

世界で最初にリニアボールブッシュのミニチュアシリーズの量産を開始したリニアボールブッシュパイオニアメーカーであるヒーハイト製リニアボールブッシュは、コンパクトで使いやすく高精度・高品質リニアモーションベアリングで、メカトロニクスシステムにとって高速化、小型化、省エネルギー化への欠かすことの出来ない重要な機械要素です。



リニアボールブッシュ



シャフトホルダ



ミニチュアボールねじ
スプライン(BSSP)

ボールスプラインユニット

ボールの転がり運動を利用した直線運動機構であり、軸と外筒の転走（送）溝の案内により、ラジアル荷重だけでなく、回転トルクを受けることができます。トルクを伝達しながら直線運動をする機構に最適で、搬送装置やロボットなど幅広い分野で使用されています。



有限ストロークボールスプライン



回転ベアリング一体型ボールスプライン
ユニット（有限ストローク）

LMHB

ハウジングに圧入組付けするリニアブッシュ

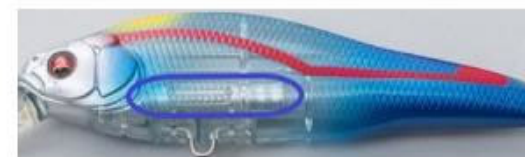


軽量化リニアボールブッシュLMHB

SGIL

リニアボールブッシュの機構に重りを付けてルアーに内蔵し、慣性により飛距離を伸ばせる機構

ルアーの重心移動リニアボールブッシュ SGIL



超低重心ベアリングシステムとウェイトを一体化
ウェイトルームベール

ヒーハイスは、未来を担う若手ドライバーの支援を通じた
モータースポーツ振興を目的に、ドライバーの育成や挑戦をサポート・応援しています。



ヒーハイスは、1962年創業以来モータースポーツ向けエンジンパーツの製造に深く関わってまいりました。

0.1秒の速さを競うモータースポーツに提供するエンジンパーツは技術的要求が高く、その部品製造には独自のノウハウと高度な加工技術が要求されます。

モータースポーツの発展とともに変化する技術的要求に真摯に取り組んだことにより、一つひとつの高度な技術を確実に蓄積することができました。

この培った高度な技術と永年にわたるエンジンパーツの製造から学んだ「モノづくり精神」は今日の独創的な製品を生みだす源となっています。

モータースポーツの発展とともに歩んできた当社は、「世界に通用するドライバーの育成」を掲げ、Hondaの若手ドライバー育成プログラムに心より賛同し、「ホンダ・フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト」を応援いたします。

ヒーハイス株式会社
代表取締役社長 尾崎 浩太

高精度位置決めステージ

ヒーハイトの高精度位置決めステージは、長年培ってきた直動案内軸受及び、精密機器部品の加工技術に、独創的な設計を基に開発された、これまでに類例を見ない数々の特長を備えた高精度位置決めステージです。



XYθステージ



超精密ステージ



Zチルトステージ



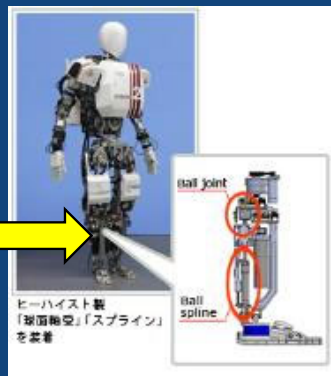
Z軸ステージ

球面軸受

パラレルメカニズムにとって不可欠な多自由度のジョイントは、これまで回転ジョイントの組み合わせによって2～3自由度を得ていました。しかしこれらのジョイントは構造上複雑になり、大きくなってしまいうという特長がありました。また多自由度を持つ滑りの球面軸受もありますが、大きな摩擦抵抗と内部隙間がありました。ヒーハイトではこれらの課題を解決すべく転がりによる球面軸受を開発しました。



球面軸受使用例



4軸モーションシミュレーターに使用される球面軸受SRJ



出所：(株)ゼンカイレーシング提供資料 4軸モーションシミュレーターより掲載

環境 SDGs

1. 太陽光発電の設置（年間発電量約162,000kwh、CO₂排出量年間約60.65tの削減を見込む）
2. 廃棄物を固形燃料へ再利用「RPF」（Refuse Paper & Plastic Fuel）
3. フードドライブ事業参加（食品廃棄ロスを減らし、子ども食堂へ寄付）
4. 国際協力活動支援（チャイルド・スポンサーシップ）（貧困に苦しむ支援地域の環境整備を支援）
5. 紙のエコ化（卵の殻のリサイクル） エコペーパー「CaMISHELL」

1. 太陽光発電



2. 廃棄物を固形燃料へ「RPF」



3. フードドライブ事業



4. 国際協力活動支援 （チャイルド・スポンサーシップ）



5. 紙のエコ化 （卵の殻のリサイクル） 「CaMISHELL」



人的資本経営	1. 奨学金返還支援手当の導入 2. 持株会活性化（奨励金還元率UP 50%へ） 3. 秋田市元気な子どものまちづくり企業認定
取引先関係	※. パートナーシップ構築宣言で協力会社への対応 支払サイトの短縮化（手形60日に変更）

1. 奨学金返還支援制度の導入
業務に集中して安心して長く働ける環境を整え、人材の確保と定着をより一層図って参ります。

2. 持株会活性化
・奨励金還元率を従来の5%から50%に増額
・社員と会社とのエンゲージメント向上を高め、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に努めて参ります。

※ パートナーシップ構築宣言で協力会社への対応
・支払サイトの短縮化（手形60日に変更）
・サプライチェーンの取引先や価値創造を図る事業者の皆様との連携による相互付加価値向上及び、共存共栄を進めることで、新たなパートナーシップの構築を目指します。

6. 今後の展開

経営ビジョン

自動化・省力化の機械要素部品「リニアブッシュ・アジアNo.1」

戦略

自社の弱点を強さに変える

→フランチ増産及び拡販によりシェア拡大を目指す

2020～2023「設備投資額＞減価償却費」

2024～ 「揃えた武器で結果を出す」「スクラップアンドビルド」

【期首の予測】

半導体市場は、24年は再び徐々に市況が良くなっていき、
25年には過去最高の市場規模となる予測
直動機器も後半から需要が回復してくるのではないかと予測

【現状】

半導体関連市場は「AIかそれ以外か」で明暗が分かれている
AI以外はまだら模様で調整局面
需要業界全体の回復にはいまだに時間を要する見込み

【期待】

2021年から実行した「減価償却費を上回る設備投資」という決断の効果を期待
レース部品を中心とする精密部品加工は25年、26年と繁忙予想

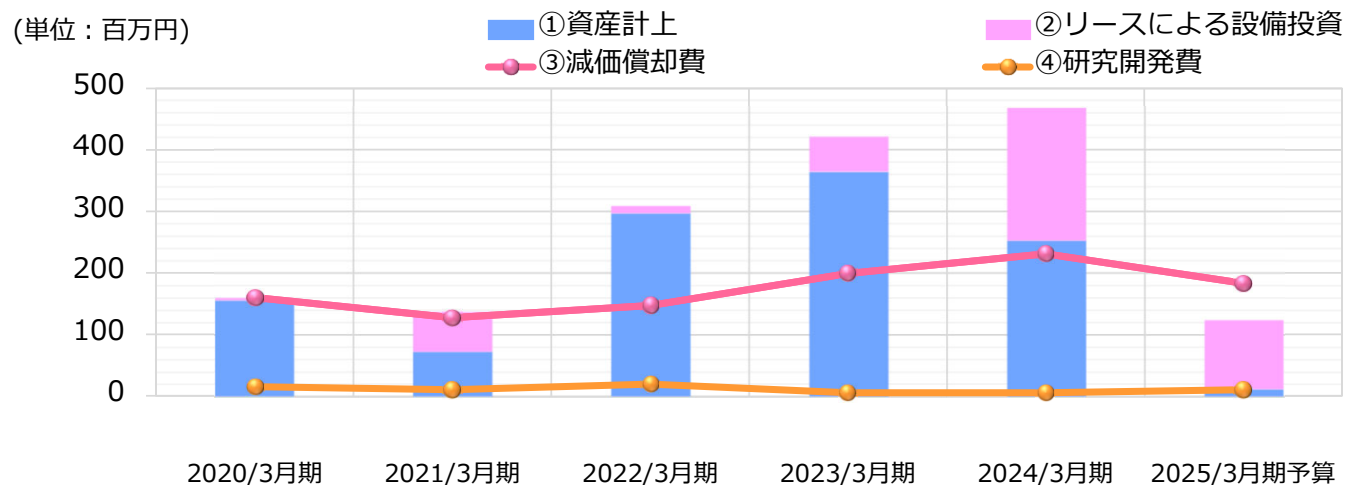
厳格化された東証からの要請「流通株式時価総額」
をクリアするために、株価や株主数等への対策が課題

ただし、これらは自社の努力だけではコントロールできず、
バックアッププランが必要となっている

今後はプランの決議と実行となる

設備投資・減価償却費・研究開発費の推移

資産計上(その他)に、A棟198百万円が含まれております。
減価償却費は、機械設備は12年定率償却、建物は30年定額償却しております。
研究開発費は、主に社内の自動化生産に向けた改善・開発の取り組みとなっております。



①+②設備投資合計	161	138	310	422	468	128(118)
①－1 資産計上（機械）	95	44	259	296	27	8(-)
①－2 資産計上（その他）	61	29	38	68	226	8(3)
②リースによる設備投資	4	64	12	57	215	112(115)
減損 355			(単位：百万円)			
③減価償却費	160	127	147	199	231	183(89)
④研究開発費	15	10	19	5	5	10(1)

()は上期実績

不易流行

「不易」とは、どのような時代や環境になろうとも、変えてはならないこと。

「流行」とは、その時代、時代の環境の変化に順応していかなければならないこと。

今後も市場の変化を注視し、

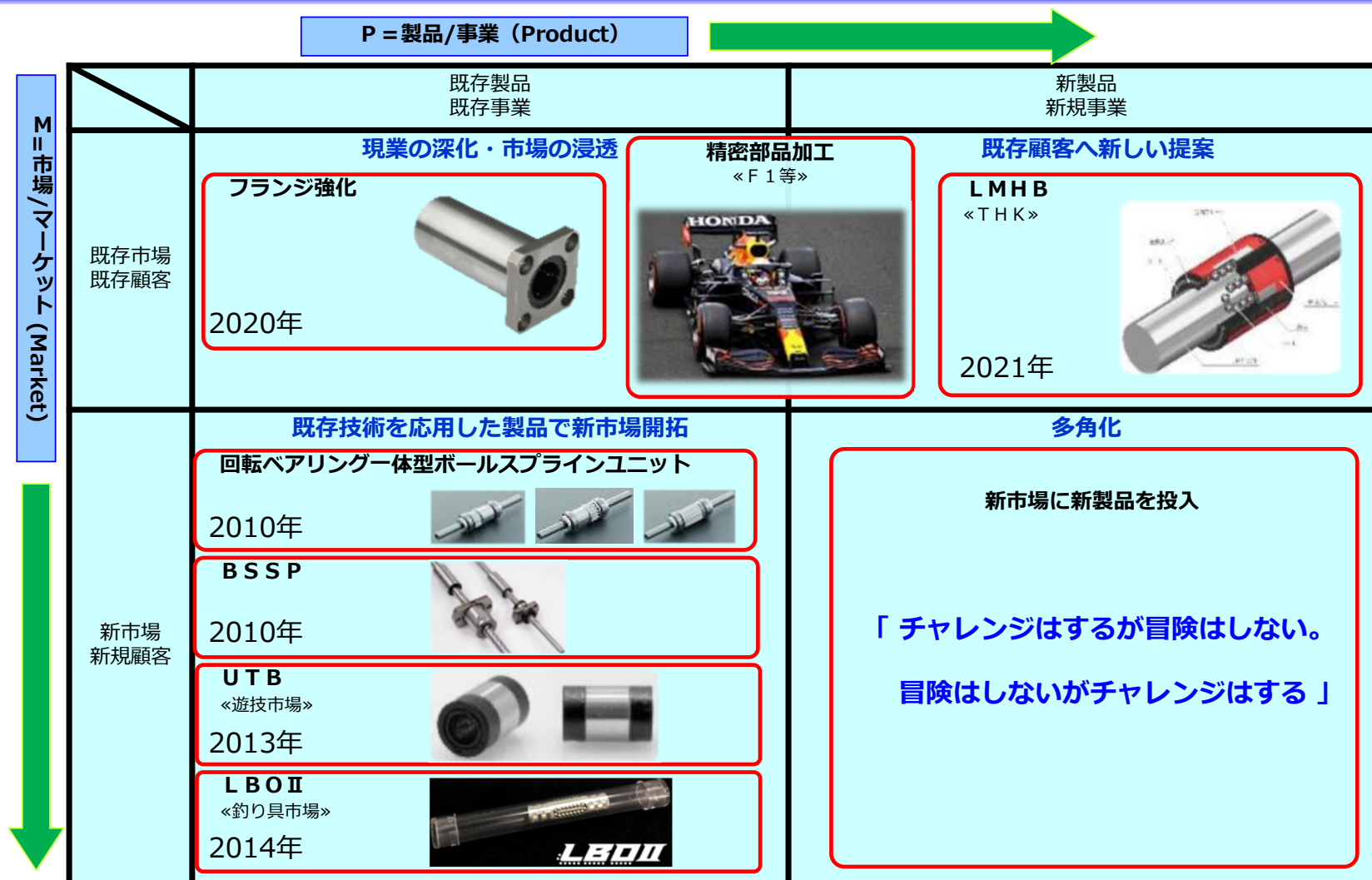
取るべきアクションを慎重に見極めながらも迅速に対応していく。

成長とは、変化すること、変化を起こすこと

これからが（2024年～2025年）これまでを決める

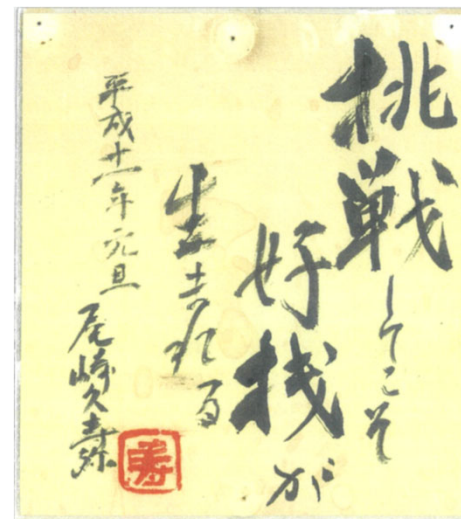
◇コロナは収束したが、取り巻く状況は「平時ではなく有事」と捉え、

有事での発想の攻守が必要





引き続き「フレンジ生産強化」



臥薪嘗胆

「減価償却費を超える設備投資によりシェア拡大」
という決断を信じ、勝機まで我慢と努力を重ねる



ヒーハリスト株式会社

担当窓口 : 取締役 管理部長 佐々木 宏行
管理部長 総務課長 大松 勝

TEL : 049-273-7000

FAX : 049-273-7001

E-mail : info1@hephaist.co.jp

URL : <https://www.hephaist.co.jp/>

この資料に掲載しております当社の計画及び業績の見通し、戦略などは、発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。あくまでも将来の予測であり、様々なリスクや不確定要素により、実際の業績と大きく異なる可能性がございますことを、あらかじめご承知置きますようお願い申し上げます。